

日本近代演劇の創始者 島村抱月が生まれ育ったまち 浜田(金城)～

私たちになじみの深い現代劇(日常の話し言葉での劇)は、明治時代に「新劇」として生まれました。その新劇を全国に広めたが、浜田市金城町出身の島村抱月です。

苦学の末、海外に留学した抱月は、ありのままを伝えるべきだという自然主義の考え方や西洋の劇を日本に紹介しただけでなく、芸術座という劇団をおこして演劇の魅力を日本全国に伝えました。金城町にある抱月の墓には、今でも演劇関係者がお参りを続けています。

【佐々山瀧太郎生まれる】

1871年(明治4)、金城町小国に、父佐々山一平、母チセの長男として生まれました。名前は瀧太郎です。(のちに島村家の養子になり、島村瀧太郎となります。なお抱月は雅号(ペンネーム)です。)

瀧太郎のおじいさんは、久佐の庄屋、佐々田家の鉄山(たたら場)で働いていました。そして、しだいにその鉄山をまかされるようになり、財をたくわえました。父一平も鉄山をまかされますが、浜田地震と外国から安い鉄が入ってきたことに、事業の失敗が重なり倒産。一家は、借金に追われて、久佐のあちこちを転々とする生活になりました。

【瀧太郎、勉学に励み、上京の機会を得る】

瀧太郎は、大変に勉強ができました。小国小学校でも久佐小学校(今の久佐八幡宮)でも一番でした。小学校を卒業した瀧太郎(13歳)は、もっと勉強したくて、働きながら勉強することにします。浜田に下宿して、薬局見習い生や裁判所の給仕をしながら、小学校高等科の夜学や英語・数学・漢文の私塾に通って、勉強しました。特に英語は、ほとんど独学でマスターし、裁判所に来た英文の手紙の訳を全部まかされるほどになりました。

その頑張り、検事の島村文耕にみとめられ、「東京の大学に進む学資を出すので、養子になってほしい。」といわれます。瀧太郎は長男だったので、父は猛反対です。けれども、どうしても東京で勉強をしたかった瀧太郎は、まず学資だけ出してもらうことにして、東京へ旅立ちます。1890年(明治20)、瀧太郎が20歳の時です。

上京した瀧太郎は、いくつかの学校で勉強した後、1891年(明治21)に、東京専門学校(のちの早稲田大学)文学科に入学します。その学校の教授で「近代文学の父」といわれる坪内逍遙から多くのことを学びます。瀧太郎は、ここでもいっしょうけんめい勉学に励み、首席で卒業します。

【文芸評論家 島村抱月 誕生】

1891年(明治21)に、島村文耕の養子となり、「島村瀧太郎」となったの瀧太郎ですが、卒業後に発表した論文や小説で、「抱月」という雅号(ペンネーム)を使うようになります。瀧太郎が好きな詩人、蘇東坡の漢詩「赤壁の賦」の中の言葉です。その後、雑誌記者、新聞記者、母校の講師、中学校教員などをしながら、次々と論文(文芸評論)や小説を発表していきます。

【抱月、海外留学生に… 演劇への関心が高くなる】

1902年(明治35)、抱月32歳の時、今までの功績が認められて、東京専門学校の留学生に選ばれます。3年間イギリスやドイツの大学で学ぶかわら、劇を130公演も見ます。しだいに、近代演劇への関心が抱月の中で大きくなっていきました。

1871(明治4)	1月10日、金城町小国下土居で生まれる。 ※抱月生誕地顕彰の杜公園(小国)
1880(明治13) 10歳	久佐に引っ越す。 ※成育地の一つ＝熊屋跡(久佐) ※小学校＝久佐八幡宮(久佐)
1883(明治16) 13歳	久佐小学校を卒業。薬局見習い生として働きながら勉学に励む。
1884(明治17) 14歳	浜田裁判所の給仕となり、働きながら勉学に励む生活が続ける。 ※抱月下宿跡(浜田市紺屋町)
1890(明治23) 20歳	東京に出て、物理学校、日本英学院、商業学校等で学ぶ。
1891(明治24) 21歳	島村文耕の養子となり島村姓に。 東京専門学校(のちの早稲田大学)文学科入学
1894(明治27) 24歳	文学科卒業。「早稲田文学」記者や母校講義録講師に。 「抱月」として評論や小説を発表
1895(明治28) 25歳	文耕のめい イチ子と結婚
1902(明治35) 32歳	東京専門学校第2回留学生として英・独に留学(3ヶ年)。オックスフォード大学、ベルリン大学で学ぶ。多くの近代劇を鑑賞。
1905(明治38) 35歳	実父一平 小国で焼死 ※ゆかりの地…光超寺(小国)
1906(明治39) 36歳	帰国後、母校の講師に 坪内逍遙とともに文芸協会を設立



【「文芸協会」を設立… 抱月、新劇の脚本・演出家に 】

35歳で帰国した抱月は、1906年(明治39)に、恩師の坪内逍遙と「文芸協会」を設立し、日本の文学・美術・演劇の向上をめざします。1909年(明治42)には、協会内に「演劇研究所」を作って俳優の養成を始め、抱月は指導講師になります。そして、研究生の発表会が評判になり、東京帝国劇場で一週間の公演が決まります。シェークスピアの「ハムレット」です。初めて目にする西洋演劇は好評で、大阪でも上演します。次の抱月訳・演出によるイブセン「人形の家」も大評判。文芸協会は、古典劇や歌舞伎といった「旧劇」に対抗する「新劇」を演じる演劇集団として有名になっていきます。抱月が41歳の時です。

なかでも、体当たりの演技で新しい女性像を演じる女優松井須磨子(まつい すまこ)の人気は高くなっていきました。そして、松井須磨子と島村抱月とは、しだいにひかれあうようになったのです。

【「芸術座」を結成 … 抱月、演劇集団の経営者に 】

文芸協会の人気が高まるにつれて、逍遙と抱月の意見がくいちがうようになりました。逍遙は、古典的な劇の上演を望み、抱月は、現代劇の上演を望んだのです。その上、抱月と須磨子との問題も加わり、ごたごた続きの文芸協会は、1913年(大正2)解散します。そしてその年、抱月は、須磨子らと芸術座を結成し、新劇の劇団を経営することになります。抱月は、大学教授・文芸評論家の地位も名声も家族をもなげうって、演劇活動へと進んでいくのです。抱月は43歳でした。

芸術座が1914年(大正3)に上演したのが、抱月訳・演出のトルストイ「復活」です。抱月は、内容を単純にし、途中で観客全員とカチューシャ役の須磨子とが一緒に歌う演出を取り入れました。「復活」は大人気となり、劇中歌の「カチューシャの唄」も大ヒットとなりました(日本の歌謡曲第1号)。芸術座は、人気劇団となり、5年間で朝鮮・台湾・満州を含む全国195カ所で公演しました。芸術座は、新劇の魅力を多くの人に知ってもらう大衆化の役割を果たしたのです。(「復活」の上演回数は444回)

あわせて1915年(大正4)には、東京に、ホールやけいこ場をそなえた「芸術倶楽部」を開き、広く利用を呼びかけます。そして、「復活」で得た収入を使って、実験的な演劇を発表し、新劇の「大衆化」と「芸術性の追求」という二つの道を進んでいくのです。

抱月は、劇団経営(多くの役者やスタッフの生活を保障しながら利益を得ていく)という未知の分野に飛び込んだわけですが、自分が子どもの頃に慣れ親しんだ鉄山経営のシステムを、劇団の経営に活用したのではないかとわれています。

【突然訪れた永遠の別れ …抱月 48歳 】

1918年(大正7)、芸術座は、松竹座と提携することでやっと経済的に安定します。結成5年目となった芸術座も、これから順調に進みそうでしたが、抱月は、スペイン風邪(インフルエンザ)から肺炎を併発、11月5日、あつけなく生涯を閉じてしまうのです。抱月は48歳でした。(その後を追うように、須磨子も命を絶ててしまいます。°)

詩人の薄田泣菫(すずきたきゆうきん)は、抱月の死を悲しんで、「島村抱月氏が亡くなったのは、文壇にとっても劇壇にとってもつぐなうべからざる大きな損失である。」と述べています。

1989年(平成元)、「カチューシャの唄」を縁に、島村抱月(作詞)、相馬御風(作詞)、中山晋平(作曲)、松井須磨子(歌)のそれぞれの出身地である浜田市、新潟県糸魚川市、長野県中野市、長野県長野市は、知音都市交流を始めました。その交流は今でも続いています。

島村抱月は、石見が生んだすばらしい文学者であり、日本の演劇界に大きな足跡を残した人物です。

参考 「評伝 島村抱月(岩町 功)」 「新劇の父 島村抱月」 「女優(渡辺淳一)」 「抱月 新劇の父(池野 誠)」 文責 石橋孝彦 2009

1909(明治42)	協会内に演劇研究所設立。抱月は指導講師に。
39歳	
1911(明治44)	文芸協会、帝国劇場で「ハムレット」を一週間上演し評判に。
41歳	
1913(大正2)	第2回公演の「人形の家」も好評
43歳	逍遙、文芸協会を解散
	抱月、芸術座を結成。「内部」と「モンナ・バンナ」を上演
1914(大正3)	第3回公演として帝国劇場で「復活」を6日間上演。連日満員
44歳	大阪・京都・中国・九州で上演。
	「カチューシャの唄」大ヒット
1915(大正4)	日本国内公演・海外公演(台湾・朝鮮・満州)も行う。
45歳	拠点施設「芸術倶楽部」完成
1917(大正6)	8月 山陰公演(松江、出雲、大田など9ヶ所。「剃刀」・「復活」を上演
47歳	芸術座、松竹と提携。
1918(大正7)	10月、スペイン風邪(インフルエンザ)にかかる。
48歳	11月5日、肺炎を併発。急死
	1月5日、松井須磨子 後追い自殺
1919(大正8)	浄光寺に島村家の墓 建立
2004(平成16)	東京の雑司が谷霊園の分骨を浄光寺にまとめる(墓石はそのまま)
	法名:安祥院実相抱月居士
	※ 抱月の墓 = 浄光寺(久佐)

カチューシャの唄 (5番まであります)
 作詞 島村抱月 相馬御風
 作曲 中山晋平
 1 カチューシャかわいさ 別れのつらさ
 せめて淡雪 解けぬ間と
 神に願いを ララ かけましょか
 2 カチューシャかわいさ 別れのつらさ
 今宵一夜に 降る雪の
 あすは野山の ララ 路かくせ